

総合的な防災政策
Total Disaster Risk Management

優良事例集

2008

Good Practices
2008

はじめに

これまでの報告によれば2007年において世界中で数多くの自然災害が発生していることが報告されています。中越沖地震はマグニチュード6.6の地震で、7月16日に日本で起こりました。死者11名、負傷者1000名以上、また300以上の建物が全壊したと報告されています。その後、マグニチュード8.0のペルー地震が太平洋沖ペルーで8月15日に起こり、死者500名以上の犠牲を出しました。そして、巨大サイクロン「シドル (Sidr)」が11月15日にバングラデシュを襲い、死者約3,200名、行方不明者約800名、負傷者約35,000名にのぼり、また、700万人以上の人がある影響を受けました。これらの大災害から、その被害を軽減するために学ぶことが我々には多くあります。


「兵庫行動枠組み (2005～2015)」の進捗状況を検証していく中で、防災教育が社会の継続的発展には不可欠であるという点については、広く意見が一致しています。「兵庫行動枠組み優先事項」に対応することによって、情報が共有されるようになり、また、コミュニティレベルでの災害リスク軽減に関する教育が効果的なものとならねばなりません。

進行中の「兵庫行動枠組み (HFA)」において、アジア防災センター (ADRC) は、災害に対する科学的能力の開発支援に貢献するばかりでなく、情報の共有と防災教育にも注意を向けていくつもりです。ADRCには、神戸国際連合災害救済調整官事務所 (UN-OCHA)、国際防災復興機構 (IRP) との協力的立場にあり、また、ADRCはアジアの多くの関係者と密接に連携して働いています。ADRCとこれらの協力機関は、総合防災政策 (TDRM) として知られている災害リスク軽減に対する総対的アプローチを策定しました。

「総合防災政策：優良事例集」は、TDRMの概念とその優良事例を記載した利用し易いハンドブックで、神戸で2005年1月18日～22日に開催された国連防災世界会議用として発行されました。これに記載の「優良事例2008」には関係者が情報を共有し、世界の災害リスク軽減に貢献できるよう、ADRCメンバーの国々から提示された優良事例が記載されています。

みなさんから今後も幅広く優良事例をお教え頂く事は我々の非常な喜びとなります。この刊行物がTDRMのアプローチをさらに推進し、より安全な世界を創り上げるのに貢献できることを願っています。

2008年3月



鈴木 弘二

アジア防災センター 所長